

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：17601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00939

研究課題名(和文) 中世日向国の仏教文化に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive research on Buddhist culture in medieval Hyuga country

研究代表者

関 周一 (Seki, Shuichi)

宮崎大学・教育学部・教授

研究者番号：30725940

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：平安後期から室町期に至るまで一木造の仏像がみられる。内割りを施さないなど、霊木への崇敬に関連した造形がみられる。平安期の造像技法の伝承と、鎌倉期以降の外観様式との折衷による「日向様式」が成立していた。

西都市所在の円通山麟祥院所蔵の大般若波羅蜜多経は、元徳2年(1330)～建武2年(1335)にかけて書写された。底本は、北宋の福州東福寺版大蔵経である。14世紀後半～15世紀後半に一部を補入し、天文12年(1543)に戦乱によって紛失した分100巻(巻301～400)を一括補入した。江戸時代から明治3年(1870)まで補修が続けられ、地域の信仰の核として使用されたことがわかる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中世の仏像は寄木造が主流であることに対して、日向国の中世仏像は一木造を主としており、きわめて地域色が濃い。このことは、中世仏像の見直しを迫るものである。

円通山麟祥院所蔵の大般若波羅蜜多経は、日本に輸入された南宋の版本を鎌倉末期に書写したもので、南宋の仏教文化が日向国に流入したことを示している。また近世や近代初期に至るまで、補入や補修を繰り返しており、地域における仏教信仰の継続を示している。

仏像・大般若波羅蜜多経の調査は、宮崎県内の文化財の再評価をするもので、文化財保護の観点から意義ある成果だといえる。

研究成果の概要(英文)： In Hyuga Province, Buddhist statues made of one piece of wood can be seen from the late Heian period to the Muromachi period. There are shapes associated with reverence for sacred trees, such as no internal hollows. The 'Hyuga style' was established as a compromise between the tradition of statue-making techniques from the Heian period and the exterior style from the Kamakura period onward.

The Great Prajnaparamita Sutra, owned by Entsu San Rinsho-in Temple in Saito City, was transcribed from 1330 to 1335. The original text is the Fuzhou Dongfu Temple version of the Tripitaka Sutra in the Northern Song Dynasty. Parts were supplemented from the late 14th century to the late 15th century, and in 1543, 100 volumes (volumes 301 to 400) that had been lost due to war were supplemented at once. It was continued to be repaired from the Edo period until 1870, and it can be seen that it was used as a core of local religious beliefs.

研究分野：日本史

キーワード：日向国 日向様式の仏像 一木造 大般若波羅蜜多経 宋版

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者の関周一は、2014年度より、宮崎県文化財保護審議会および宮崎市文化財審議委員会の委員を務めてきた。文化財指定の可否を審議するために、対象となる仏像や絵画などを複数回にわたり、現地で調査してきた。その際、同じく宮崎県文化財保護審議会の委員である石川千佳子や、大野匠とともに調査を行ってきた。調査を通じて、宮崎県内には、中世の仏教文化に関する文化財が多数存在していること、しかも際だった個性を持つものばかりであることに気がついた。おおむね他地域との交流を背景にしつつ、日向国の在地性と融合したものであった。

また研究協力者の山田渉を通じて、西都市麟祥院所蔵の大般若波羅蜜多經の存在を知った。鎌倉末期という比較的早い時期に、宋版を、印刷ではなく書写したという希有な特徴を有しており、明治初期までの間に複数回の補修がなされて使用されてきた。山田は、分析結果の一部を『西都市史』通史編(2016年、西都市)に執筆している。2019年8月、山田は、西都市文化財保護審議会に対して、同經典の「調査書」を提出した。同審議会による現地調査および審議の結果、同市文化財に指定された。

関は、東京大学史料編纂所の共同研究「中世南九州仏教文化の総合的研究」(研究期間：2018年4月～2019年3月、研究代表者：高橋典幸)の一員に加わった際に、高橋典幸・村井章介・高橋公明、山田および新名一仁とともに本經典の予備調査を実施した。その史料的価値の高さを確認し、本格的な調査の必要性を痛感した。

2. 研究の目的

本研究は、中世の日向国(現在の宮崎県域)を対象とし、一国レベルの仏教文化の特徴を明らかにした上で、それを生み出した政治的・社会的状況の中に位置づけることを課題とする。

3. 研究の方法

A 宮崎県内の各地に所蔵されている仏像の中で代表的ものを選び、個々の特質を明らかにする。

B 宮崎県西都市麟祥院所蔵の大般若波羅蜜多經の調査を行う。書写された経緯などを考察する。

C A・Bを生み出した背景にある日向国の荘園公領制、領主たちの動向、職人の組織などを検討する。他地域との交流の様相について、交通や流通などから検討する。

歴史学や美術史など、複数の学問分野の方法を駆使する異分野協業を行う。

Aについては彫刻家である大野匠が研究分担者として加わることで、仏像を制作者の視点から調査するという、新たな研究方法を導入する。美術史研究者とは異なる視点からの分析が期待でき、仏教文化の新たな側面を提示できるものとする。

4. 研究成果

(1) 仏像

調査対象(宮崎県北部から配列)

延岡市 普門寺蔵 『十一面観音菩薩立像』(平安後期か)

門川町 勝蓮寺蔵 『木造日蓮聖人坐像』(背面内割り部墨書; 応永元年(1394))

日向市 平岩地蔵堂 木食行道作 『勝軍地蔵尊坐像』(天明8年(1788))

西都市 黒貫寺蔵 『聖観音菩薩像』 『大日如来坐像』（ともに平安後期か）
都城市 野口家蔵 『如意輪観音坐像』（室町末か）
串間市 永徳寺蔵 『薬師如来坐像（平安末期～鎌倉初期か）

日向国において、平安後期から室町期に至るまで一木造の仏像がみられる。内割りを施さないなど、霊木への崇敬に関連した造形がみられる。

特に門川町勝蓮寺蔵『木造日蓮聖人坐像』のように、室町期まで一木造の技法が採られた理由としては、以下のことが考えられる。

巨木の樹材が容易に得られたため、高度な技術を要する割り剥ぎを行う必要がなかった。

寄木造の技法の伝播の遅延。

地域の仏師間での平安期の造像技法の伝承と、鎌倉期以降の外観様式との折衷による地域性の強い、「日向様式」が成立していた。

(2)西都市 円通山麟祥院所蔵 大般若波羅蜜多經

現状概要

- ・10巻ごとに平形木製の経秩に入れてある。その帙を2列10段に重ねて大型の木製経櫃に入れるかたちで、計600巻が3合の経櫃に収納されている。これとは別に、柑橘類用の段ボール箱2つに収められた断簡類がある。
- ・紙本・墨書。全て筆写本で、版本はなし。
- ・折本装で、おおむね縦約23.5cm、横約9.5cm程度。
- ・原則として、一行は17文字（元の版本に対応）。半葉は5行である。
- ・行間や天地の欄外・補修紙などに、写経や補修の背景をうかがわせる書き込みがみられる。

底本は、北宋の福州東福寺版大蔵経である。千字文・底本の奥書・刻工名をそのまま写した巻がある（の類中）。

本経典は、3つの部類に分けることができる。

元徳2年(1330)～建武2年(1335)にかけての書写奥書をもつもの。

13世紀前半、14世紀後半、15世紀後半に、補修に合わせて補入されたもの。

年次は、文永4年(1267)、嘉暦2年(1327)、観応3年(1352)、康安2年(1362)、

明德5年(1394)、応永5年(1398)、享徳3年(1354)、文明10年(1478)である。

天文12年(1543)、戦乱によって紛失した分100巻（巻301～400）を一括補入

したもの。

江戸時代から明治3年(1870)に至るまで補修が続けられ、地域の信仰の核として使用された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

本科研の報告書を冊子（A4版、370ページ）で刊行した他、宮崎大学附属図書館のリポジトリに登録している。
<https://miyazaki-u.repo.nii.ac.jp/records/2000533>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石川 千佳子 (Ishikawa Chikako) (10184483)	宮崎大学・教育学部・教授 (17601)	
研究分担者	大野 匠 (Oono Takumi) (90590977)	宮崎大学・教育学部・教授 (17601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	山田 渉 (Yamada Sho)		
研究協力者	新名 一仁 (Niina Kazuhito)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------